

令和5年度 学校関係者評価委員会

学校法人 都築学園
 関東リハビリテーション専門学校
 学校関係者評価委員会

会議名	学校関係者評価委員会
開催日	令和5年9月1日(金)
開催時間	18時00分～19時45分
開催場所	関東リハビリテーション専門学校 第2基礎作業実習室
出席者	<p>外部委員(3/4名)</p> <p>中山 陽貴 (医療社団法人三成会河北前田病院・理学療法士)</p> <p>淵橋 潤也 (愛川北部病院・理学療法士)</p> <p>八木 崇 (卒業生・介護老人保健施設 ウェルピア白寿・作業療法士)</p> <p>笠原 健生 (卒業生・介護老人保健施設 四季の里・作業療法士)</p> <p>(笠原先生は所用により欠席)</p> <p>事務局(5名)</p> <p>奈良 研治 関東リハビリテーション専門学校 副校長 兼 作業療法学科長</p> <p>石川 幸喜 同 理学療法学科長</p> <p>植木 正史 同 事務長</p> <p>大石 康晃 同 事務職員(総務課長)</p> <p>長谷川 孔亨 同 事務職員(学生・就職課)</p>
配布資料	令和4年度 自己点検・評価報告書,自己評価の実績及び参照資料一覧表 R5年募集用学校パンフレット、同学生募集要項、R5年度版学生生活の手引き等
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会場、配置資料の説明 総務課長(大石) 2. 副校長の挨拶及び委員会参加者の紹介(自己紹介主体)進行;総務課長(大石) 3. 委員長の選任 総務課長(大石) 4. 学校評価の論拠、参照資料についての説明 総務課長(大石) 5. 評価項目ごとのヒアリング・意見交換
議事 (委員長選任)	学校関係者評価委員会委員の紹介・挨拶に続き本委員会委員長選任について 前年度継続委員から選出したいと提案、八木委員が本会委員長に選任された。

自己点検評価表に基づき質疑応答

評価項目	質疑応答
<p>●基準1 教育理念・目標 育成人材等</p>	<p>以下の各小項目についての取組み状況を各委員に判定した根拠について、まとめた資料を配布しパンフレット等の評価に係る参考資料及び各種協会認定証等を提示して説明した。現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。</p> <p>① 学校の教育理念・目標・育成人材(ディプロマポリシー)は、定められ学校パンフレット等に明示し周知している。 ② 学校の職業教育の特性は、医療系の国家資格取得と明確である。 ③ 社会のニーズを学校教育の目標及び将来構想等に反映する事については、障がい者スポーツ指導員認定校や介護・福祉資格取得支援等を取り入れ、更に日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナー養成課程の認定を得る等の工夫をしている。 ④ 教育理念等の学生への徹底については、入学直後の新入生オリエンテーションに組み込み周知している。</p>
<p>●基準2 学校運営</p>	<p>以下の各小項目について説明した。特に、自己評価の⑥専任教員の配置と担当科目の適合性について、今年1月に改正されたガイドラインの自己評価項目に合わせて追加した項目である事、また、評価についても適合する事を説明、納得頂き疑義はなかった。</p> <p>① 学校の目的に沿った運営方針と ②事業計画の策定については、年度の事業計画と予算執行計画で明示されそれに沿って行っている。 ③ 運営組織や意思決定機能、④人事・給与規定、教育及び ⑤予算執行の意思決定とそのシステムについては、都築学園規定及び校務システムによる。 ⑥ 専任教員の配置と担当科目 ⑦情報システムと情報公開について、今年も本校HP上に情報公開をしている事を報告した。</p>
<p>●基準3 教育活動</p>	<p>以下の各小項目について説明した。①について説明し理解を得た後、特に、②カリキュラム編成についてはガイドラインに基づくの文言を追加、③教育方法の創意工夫、④授業評価の実施及び評価体制の有無について現状説明した。特に本項では教育の現状把握と改善への糸口となる学生アンケートの収集法、意見の反映、活用法について活発な意見交換が行われた。</p> <p>① 教育到達レベルや学習時間の確保は指定基準を満たす。②各学科のカリキュラム編成、③職業実践教育の視点に立った工夫と取組みについて説明</p> <p>④ 授業評価の実施・体制について、現在は学生アンケートによるものだけである。本項目では、学生意見は教育の現状を把握し改善に繋がるものでアンケートは重要と認識、本項で活発な意見交換が行われた。具体的にはアンケートの提出対象は全員か？記名式か無記名かで回答内容も異なる。また、教員サイドのフィードバックは非常勤講師にも行うのか等々、目的によって聴き取りの方法や活用法も様々である。本校は全員対象だが、未提出の学生もいる。また、情報共有は大切と考え非常勤講師にも個人が特定できない形で開示している。アンケートについては、いかに多くの学生から聴き取りするかも大切で理学療法学科ではGoogleフォームを使う等苦慮しているが全員からの回収はできていない。一方、アンケートが取りっぱなしになっていないか？自分の意見が何かの改善に繋がる事が形として目に見えれば、アンケートを回答するモチベーションも高まり、回収率の向上や建設的な意見に繋がっていくのではないかと思料する。今後学校として継続して検討していきたいとした。</p> <p>⑤ 成績評価・進級/卒業の判定基準は、学則により学生に周知しA/B/C/Dの4段階評価を行っている。 ⑥ 資格取得に対する指導体制については、1年次から模試を取り入れ、国家試験対策講義を行っている。 ⑦ 教員が先端的な知識・技能修得のための研修、指導能力・資質向上のための取組みについては、各種研修等の参加は業務及び予算の制約の中、参加可能な教員研修等に積極的に参加している。 ⑧ 教員確保については、作業療法学科で教員の定員を今年度確保した事を説明した。特に疑義はなかった。</p>

<p>● 基準4 学修成果</p>	<p>以下の各小項目について説明した。特に、本校設置目的に直結する②資格取得率について、活発な意見交換を行い貴重な提言を頂いた。</p> <p>① 就職率向上については、開校以来、就職内定率100%であり、H30年度からは就職説明会も開催しており、特に議論はなかった。</p> <p>② 資格取得(国試合格)率については、作業療法学科(夜間部)はR4年度(57%)は全国平均を下回り、この数字では、募集広報に影響するのではとの提言があった。 夜間学科は3年制であり、新カリキュラムで臨床実習を含め授業時間が増えて国試対策に充てる時間が少ない中、模試とリハドリル、その結果に基づく学習、教員サポートを行ってきたが、仕事をしている学生も多く、対面しての国試対策の時間確保や個人の学習状況の把握等が難しい状況が見受けられた。経済事情も分かるが最重要の目的である資格取得に対する意識付けが大切で、資格取得に失敗したら入学した意味がなくなる。故に3年次の国試対策に至るまでの経済的な備えも重要と認識して、入学時からの長期的な意識付けと経済面も考慮した合格率向上に取り組む方向に議論は集約され委員の理解を頂いた。</p> <p>③ 退学率については、理学療法学科1年生の退学者が"0"になった事で学校全体で前年度から大きく低減した。コロナ禍の教訓を活かし、リモートより対面授業を重視した事、心理教諭による学生相談室を設置したことなどの成果と思われる。</p> <p>④ 卒業生・在校生の社会的活動・評価の把握については、学校祭時に合わせて行うOB会での情報収集が主な活動で、学校祭中止で活動ができていない。情報システム等WEBを活用した双方向の情報交換可能なシステム構築等を継続して検討すると報告し理解を得、特に質疑はなかった。</p>
<p>● 基準5 学生支援</p>	<p>以下の各小項目について説明、事後、議論した。特に、本校で昨年度開設した心理教諭による学生相談室について報告し、昼間部1年生の退学者低減に繋がったのではと推察される旨報告した。</p> <p>① 進路・就職に関する支援体制は、既に構築され高い就職率を維持、また、H30年度から就職説明会を継続実施し今年はWebで開催する等柔軟に対応したと報告した。</p> <p>② 学生相談に関する体制については、その有効性の他、学業成績と退学率は大きく関連する。昨年心理教諭によるスクールカウンセラー(学生相談室)を導入したと報告し、個人情報保護の観点から、利用状況等の詳細は未把握だが、昼間部1年生の退学者が昨年は発生せず大幅に減少した。これらは学生相談室も関係したと推察される。個人情報保護と学生支援のための相談室利用現況・情報把握についての両立は難しいが、これについては今後の課題とした。</p> <p>③ 経済的側面に対する支援体制は、各種公的奨学金の紹介は毎年行っている。特に、経済事情による独自の支援策は優秀者の救済規程はあるが実績はない。R2年度からの国の修学支援制度に機関要件適用校の認定を受け、対象学生への支援をR2年度から既に継続実施している旨、委員に報告。</p> <p>④ 学生の健康管理支援については年一度の健康診断実施、保健室の整備及び近傍医療機関の活用などを行っている。</p> <p>⑤ 学生の日常生活・校外活動支援については担任が担当している。</p> <p>⑥ 保護者との連携については、必要都度、教員、教務課、会計課などそれぞれ家庭通信等を活用して連携している。 なお、④⑤⑥の項目については、特筆する質疑はなかった。</p> <p>⑦ 卒業生への支援態勢については、基準4の④項同様、情報システム等Webを活用した双方向のものにはなっていない。今後本校HPへ卒業生関係の連携ページ掲載を継続検討していくと報告し理解を得た。</p>

<p>●基準6 教育環境</p>	<p>以下の各小項目についての取組み状況を説明し各委員に現状を認識して頂いた。</p> <p>① 施設・教材については支障の出ぬように適宜整備していると説明した。</p> <p>② 実習施設の教育体制と連携については、基準を考慮した施設の設定と実習前の指導者会議の開催、実習地訪問による密な連携を図っている事を説明。</p> <p>③ 防災体制については現状の防災体制及び備蓄、新入生オリエンテーション教育での徹底などを報告し理解を得た。 この②③項で特に検討すべき点はなかった。</p>
<p>●基準7 学生の募集と受入</p>	<p>以下の各小項目についての取組み状況を説明し各委員に現状を認識して頂いた。</p> <p><u>特に少子化、コロナの影響下の学生募集の厳しい環境と本校の取組みを説明し、この環境下での今後の募集広報の方向性について意見を伺った。更に、夜間部作業療法学科の募集広報活動における重点の指向性の難しさも含めた議論を行った。</u></p> <p>① 学生募集活動については、毎年の年度募集計画に沿って、募集要項を作成して募集広報を展開している。</p> <p>② 学生募集に関する入試の評価判定基準については、現状の評価法(5点満点で合格基準3点以上)を説明した。 この②項で特に議論はなかった。</p> <p>③ <u>学生募集成果の項目で、成果を上げるための広報活動については、学校サイドから、本校の強みやカラー、アピールポイント等の明確化が重要で外から見てもどう映るかとか問いかけて行った。これは四大と専門学校の違いについても良く聞かれるが、大学は研究や学問を学ぶところで専門校は専門の技術を学ぶ場所、それを教える教員の専門性や質などが大切では、経験値の高い良い教員がいる事をアピールしてはとの意見があった。</u> <u>また、夜間部の作業療法学科については、高校生の認知度が低く、また夜間部は比較的敬遠される傾向がある。募集広報を行っていく上で医療現場、また外から見ても何か気付く様な事はないか。との問いに、「病院のリハ室にリハ職の広報資料を置いておくと、介護士が資格を増やすため、また子供用にと資料を結構持っていく人が多い。」作業療法士の仕事を理解している医療現場への資料配布も有効ではとの貴重な意見を頂いた。本意見を参考に募集広報を展開していくとした。</u></p>
<p>●基準8 財務</p>	<p>以下の各小項目についての取組み状況を説明し、各委員に現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。なお、法人として財務基盤に問題ないが、学校独自として単年度毎黒字化を図るべく努力する。特に充足率が低い夜間部の現状は財務に大きく影響するので、この学科の募集状況の改善は重要であり、改善すべく検討課題として継続して取り組む。</p> <p>① 中・長期的な財務基盤について、法人としては安定している。一方、学校独自では、夜間部の充足率が低く、財務上事業化困難なものも出てきており、改善の努力を継続する。</p> <p>② 予算執行、収支計画については、年度計画に基づき法人として厳格に運用している。</p> <p>③ 財務に関する監査については、2年に一度、外部の会計監査を受査している。 ②③の項目について、特に質疑はなかった。</p>

<p>●基準9 法令等の遵守</p>	<p>以下の各小項目についての取組み状況を説明し、各委員に現状を認識して頂き、特に法令等の遵守に関する疑義は出なかった。なお、今年改正された自己点検評価のガイドラインに③自己評価等に加え第三者評価の実施が組み込まれたので、項目内に反映した旨を報告し、現状を説明し理解を得た。</p> <p>① 関係法令・養成施設認定基準の遵守について、適切に運営し、監督官庁の審査も受査している。</p> <p>② 個人情報保護対策、法人として学園規程を整備し、厳にこれを遵守している。と訂正を図った。</p> <p>③ 自己評価・学校関係者評価・第三者評価の実施と情報公開についてはR2年度以降、毎年、本校のHPにてWEB開示していることを報告した。</p>
<p>●基準10 社会貢献</p>	<p>以下の各小項目について社会貢献について取組み状況を説明し、各委員に現状を認識して頂いた。近年は台風やコロナ禍で連続で学校祭が中止となり、部外の情報収集が進まなかった事も併せて報告し理解を得た。特に質疑等意見はなかった。</p> <p>① 学校の教育資源・施設を活用した社会・地域貢献について、例年、地元中学の職業体験を受入れ、学校祭時に地域住民に体験講座を開催してきた実績を説明し理解を得た。</p> <p>② 学生のボランティア活動の奨励・支援については、夏期ゼミや地元のボランティア活動への参加を促し、毎年複数の参加者がいる。</p> <p>③ 地域に対する公開講座・教育訓練の実施については、まずニーズの調査から行う予定であったが、近年は学校祭の中止で機会を失っている。一方で養成所指定規則の変更に伴う授業時間数の増加のため学校祭の準備時間確保との兼ね合いもあり、学校祭の継続実施についても検討しているところであり、次年度以降のどのような形が良いのかについて引き続き検討していくと報告した。</p>
<p>その他</p>	<p>① 今回も委員会が短時間のため、学校自身が自己評価した事の根拠となる実績や資料等の一覧を各委員に配布し説明に役立てるとともに当該資料を委員会会場に準備した事により説明及び理解が容易となり短時間のうちに評価委員会を終える事ができた。</p> <p>次回以降も、引き続き学校の自己評価の判定根拠となる資料等を委員会開催時に準備する。</p> <p>② 昨年まで学校関係者評価委員会は、発足の経緯から年度末に行っていましたが、学校の自己点検・評価報告を毎年6月迄に行っている事から、学校関係者委員会も夏季に開催し、本委員会で得た貴重な提言等を可能なものから業務に反映していこうとの方針の下、委員会を約半年前倒して開催したが、各委員の先生方のご理解とご協力を得て計画通りに終える事ができた。</p>
<p>まとめ</p>	<p>今年の学校関係者評価委員会は、開催時期を夏季に変更し初めて開催でしたが、各委員のご理解のもと、活発に建設的な意見、提言を頂きつつも、短い時間内ではありましたが全般的にはとても有意義な委員会となりました。</p> <p>今回頂いた貴重な意見、提言を学校として真摯に受け止めて今後より良い専門学校(教育機関)を目指して一つ一つ改善を図ってまいります。</p>

令和5年10月5日
 関東リハビリテーション専門学校
 学校関係者評価委員会
 委員長
 八木 崇